

日本カレドニア学会  
2017 年度大会プログラム  
—NPO 日本スコットランド協会 協賛—

日時：2017 年 9 月 30 日（土）10 時 00 分～19 時 10 分

会場：立命館 朱雀キャンパス中川会館 1 階 多目的室 1

（JR・地下鉄「二条駅」徒歩 2 分）

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町 1

日本カレドニア学会  
Japan Caledonia Society

（学会事務局）

防衛大学校人間文化学科 小林麻衣子研究室

（2017 年度大会事務局）

立命館大学文学部 鶴野祐介研究室

y-uno@fc.ritsumeai.ac.jp

<http://www.ne.jp/asahi/caledonia/jcs/index.html>

日本カレドニア学会  
2017年度大会プログラム  
—NPO 日本スコットランド協会 協賛—

日時：2017年9月30日（土）10時00分～19時10分

会場：立命館 朱雀キャンパス中川会館1階 多目的室1

（JR・地下鉄「二条駅」徒歩2分）

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

1. 受付（会場前） 10時00分～
2. 開会式 10時30分～  
司会 岩瀬 ひさみ（比較民話の会）  
挨拶 本学会代表幹事 照山 顕人（関東学園大学）  
NPO 日本スコットランド協会 理事 清家 久美子
3. 研究発表 10時45分～12時10分  
1) 10時45分～11時25分 司会 中島 久代（九州女子大学）  
「「海辺の牡蠣」：Stanley Robertson の *Fish-Hooses* (1990) および  
*Fish-Hooses 2* (1991)」  
山崎 遼（立命館大学大学院博士課程後期課程2年）  
2) 11時30分～12時10分 司会 宮原 牧子（筑紫女学園大学）  
「アーサー王伝説を扱ったフェロー語バラッドの物語に見られる  
ハーバート版『聖ケンティゲルン伝』の内容との類似をめぐって」  
林 邦彦（尚美学園大学）
- <休憩> 12時10分～13時10分
4. 2017年度総会 13時10分～13時40分
5. 講演 13時45分～14時45分  
司会 鶴野 祐介（立命館大学）  
「メアリー・スチュアートの五つの詩をめぐって」  
安藤 幸江（大阪府立大学名誉教授）

講師プロフィール 安藤 幸江（あんど う ゆきえ）氏

大阪大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程単位取得満期退学。主要研究テーマ：ジョン・キーツ、クリスティーナ・ロセッティ、マザーグース童謡。追手門学院大学教授在職中、ケンブリッジ大学客員研究員・オーストラリア南キーンズランド大学交換教授を経験。大阪女子大学教授、大阪府立大学大学院教授を経て、現在、大阪府立大学名誉教授。イギリス・ロマン派学会理事。マザーグース学会賞を受賞。現在、茨木市立生涯学習センター、朝日カルチャーセンター中之島教室、京都教室、川西教室、NHK 文化センター梅田教室、大阪府立大学サテライト(I-site なんば)で、『赤毛のアン』、「英米詩」、「マザーグース童謡」、「英語の歌」などを講義。

6. 研究発表 15時00分～15時40分  
3) 15時00分～15時40分 司会 中尾 正史（青山学院大学）  
「参加型メディアにおける新しいナショナル・イメージの形成  
—スコットランド英語のお笑い番組を対象としたオーディエンス調査からの考察—」  
加藤 昌弘（名城大学）
7. ラウンドテーブル 15時50分～16時50分  
司会 鶴野 祐介（立命館大学）  
「スコットランドとの〈なれそめ〉を語り合おう」  
話題提供者 照山 顕人（関東学園大学）、高松 晃子（聖徳大学）
8. 閉会式 16時55分～  
挨拶 大会事務局幹事 鶴野 祐介（立命館大学）
9. 懇親会  
時間：17時10分～19時10分  
会費：4,000円  
会場：中川会館1階多目的室2（大会会場の隣の部屋）

＜お知らせ＞

1. 参加は無料です。
2. 入会ご希望の方は、年会費として5千円（学生は3千円）をお納めください。
3. 大会終了後、懇親会を行います。会員以外の方もぜひご参加ください。
4. 当日の昼食は、会場近くに食事ができる場所がございます。
5. 当日、学会誌 *CALEDONIA* のバックナンバーを一部200円で販売いたします。
6. 準備の都合上、出欠のご連絡を同封のハガキで**9月1日（金）**までにお知らせください。  
次回大会は来年9月頃に首都圏で開催予定です。研究発表を希望される会員、その他お問い合わせは学会事務局（小林研究室）までご連絡ください。（2017年度大会事務局：鶴野祐介）

## 研究発表要旨 (発表順)

「海辺の牡蠣」: Stanley Robertson の *Fish-Hooses* (1990) および *Fish-Hooses 2* (1991)

山崎 遼

スコットランドに住む漂泊民族スコティッシュ・トラベラーは口頭伝承者として 1950 年代より民俗学や民族音楽学の領域で研究されてきた。しかしトラベラー自身が現在まで数多くの著書を残してきたことはあまり知られていない。中でもアバディーン出身の Stanley Robertson (1940–2009) は 7 作の著作と 3 作の戯曲を執筆しており、トラベラー作家の代表的存在と言える。本発表では Robertson の作家としての一面に光を当て、特にアバディーンの鮮魚加工場における彼の体験を綴った半自伝小説 *Fish-Hooses* (1990) および *Fish-Hooses 2* (1991) に焦点を絞って論じる。これらを文学研究と民俗学の研究方法を用いて分析・解釈し、(1) 個々の作品、(2) 作中で語られる物語、(3) 過去作品との関連という 3 つのレベルで考察する。そして執筆の目的、作中で語られる物語が果たす様々な機能、過去作品から通して描かれる Robertson 自身の語り部としての成長を読み解く。

「アーサー王伝説を扱ったフェロー語バラッドの物語に見られる

ハーバート版『聖ケンティゲルン伝』の内容との類似をめぐって」

林 邦彦

フェロー諸島においてフェロー語で伝承されているバラッドの中に、アーサー王伝説等を題材にしたと考えられる作品『ヘリントの息子ウィヴィント』(*Ívint Herintsson*)がある。この作品の物語には、中世のアイスランドで著されたサガ (saga) と呼ばれる散文の書物の一つで、アーサー王伝説を題材にした作品『イーヴェンのサガ』(*Ívens saga*)の影響が色濃く見られるが、このバラッドの物語中、『イーヴェンのサガ』とは相違が見られる箇所の中に、グラスゴーの司教聖ケンティゲルン (S. Kentigern) を扱った聖人伝『聖ケンティゲルン伝』(*Vita S. Kentigern*) のハーバート (Herbert) 版の内容と類似する箇所が存在する。本発表では『ヘリントの息子ウィヴィント』とハーバート版『聖ケンティゲルン伝』との類似と相違、および関連他作品との関係のありよう等を手掛かりに、上記フェロー語バラッド作品におけるハーバート版『聖ケンティゲルン伝』の影響の有無を探りたい。

「参加型メディアにおける新しいナショナル・イメージの形成

—スコットランド英語のお笑い番組を対象としたオーディエンス調査からの考察—

加藤 昌弘

本発表は、スコットランド英語を題材にしたコメディ番組の受容を通じて、新しいスコットランドらしさが視聴者によって形成されている状況に注目する。対象とする『バーニストン』のエピソード 1 は、2010 年 3 月 1 日にスコットランド国内のみで放送されたが、その後 YouTube に転載されたことで国外の視聴者数を得た。このうち特に人気の一編「音声認識技術を用いたエレベーター」を取り上げ、インターネット上で国内外のネット視聴者がスコットランドの「お笑い」を解釈し、どのようにスコットランドらしさを作り上げていったのかを、YouTube 上の 1404 個のコメントから検証していく。オーディエンス調査の結果、スコットランドにはゲール語やスコッツ語といった独自の言語が残存するものの、(1) スコットランド独特の「訛り」のある英語が、方言というよりも独自の言語として認識されていること、そして (2) それが悪かきや醜さの象徴ではなく、「憧れ」かつ「美しい」ものとして好意的に受容されていることが明らかになった。本発表ではこれらの点を、歴史学およびメディア文化研究で問題とされる、ヴァナキュラーな文化を核とする現代的なナショナル・イメージの形成と変容の問題として位置付け、考えてみたい。

